

# 北陸の奇勝、 東尋坊と平泉寺の つながり

**北**陸を代表する観光地のひとつ、東尋坊。その地名は、日本海から九頭竜川を約50キロメートルさかのぼった白山信仰の拠点、平泉寺の僧侶に由来するといわれています。平泉寺と東尋坊のつながりはどんなものなのでしょうか。



東尋坊

苔の美しさでも有名な平泉寺は、今から約1300年前の養老元(717)年に開かれ、天台宗比叡山延暦寺の末寺として大きく発展しました。戦国時代には48社36堂6千坊、寺領9万石・貫、僧兵8千人を擁したといわれます。

平成元年から始まった発掘調査によって、戦国時代頃の石畳道や坊院跡、大量の陶磁器が発見されました。他にも、砦や堀切など、約200ヘクタールにも及ぶ広大な範囲に戦国時代の遺跡が残されています。戦国時代は戦国大名や武士の時代と考えがちですが、寺社こそが石垣などの最先端の土木技術をもち、芸能や商工業に関わる人々を抱え、高度な文

化や経済力を備えていたのです。平泉寺の発掘調査によって、日本中世における宗教都市の実像が解明されつつあります。



平泉寺の石畳道

さて、この平泉寺には東尋坊という僧侶がいたと伝わっています。戦国大名朝倉氏の盛衰を記した軍記物語『朝倉始末記』や江戸時代に編纂された書物によると、東尋坊は平安時代終わり頃の「強力悪僧」であり、平泉寺のなかで疎まれていました。そのため、他の僧たちは、日本海の岸壁の上で宴会を催し、酒に酔った東尋坊を崖の上から突き落とします。すると、海が荒れ、雷が鳴り、豪雨となってその場にいた僧侶に多くの死傷者がありました。その後、毎年平泉寺の祭礼が行われる4月5日には、雲が起きて暴風雨となり、海も荒れるので、近くの漁師たちも船

を出すのを控えたそうです。

当時の様子を伝える貴重な資料「中宮白山平泉寺境内図」が平泉寺白山神社に伝わっています。この中には東尋坊が描かれており、現在も参道沿いに東尋坊跡が残っています。また、平泉寺の菩提林手間にある下馬大橋付近には「唐人防(坊)田」という地名もあります。東尋坊の伝説は、平泉寺の影響力が九頭竜川河口の三国湊(みなと)周辺に及んでいたことを示しているともいえるのではないのでしょうか。

## 関連史料・ゆかりの地



平泉寺東尋坊の井戸

平泉寺白山神社参道の脇にある東尋坊跡。敷地の奥には古井戸が残されています。東尋坊が突き落とされたとき井戸は血の色に染まり、その後も井戸に米ぬかを入れると、三国の海に浮かび上がるといわれています。

【住所】 勝山市平泉寺町平泉寺64-34 (福井北 IC から車で約35分)